安全データシート

作成日　2013年02月25日
改訂日　2014年01月30日

製 品 名：Guava Fixative Solution

１．化学品及び会社情報

製品番号　：4700-0140
製　品　名　：Guava Fixative Solution
製品和名　：Guava Fixative Solution
会　社　名　：メルク株式会社
住　所　：東京都目黒区下目黒1−8−1　アルコタワー
製品取扱部門　：メルクミリポア事業本部
MSDS発行部門　：EQJ部 EHSグループ
電話番号　：03-5434-5267
ＦＡＸ番号　：03-5434-5391
製　造　元　：EMD Millipore Corporation

２．危険有害性の要約

GHS 分類

健康に対する有害性

急性毒性（経口）	：	区分4
急性毒性（経皮）	：	区分4
急性毒性（吸入）	：	区分3
皮膚腐食性/刺激性	：	区分1C
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	：	区分1
皮膚感作性	：	区分1
発がん性	：	区分2

シンボル

注意喚起語　危険

危険有害性情報

H302+H312　飲み込んだり皮膚に接触すると有害
H314　重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷
H317　アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
H318　重篤な眼の損傷
H331　吸入すると有毒
H351　発がんのおそれの疑い

注意書き

P201　使用前に取扱説明書を入手すること。
P202　全ての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。
P260　粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
P264　取扱い後はよく手を洗うこと。
P270　この製品を使用する時は、飲食または喫煙をしないこと。
P271　屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
P272　汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
P281　指定された個人用保護具を使用すること。
P301+P330　飲み込んだ場合：口をすすぐこと。
P303+P361　皮膚(または髪)にかかった場合：直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと/取り除くこと。
P304+P340　吸入した場合：被災者を空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
P305+P351　眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。
P308+P313　ばく露またはばく露の懸念がある場合は、医師の診断/手当を受けること。
P331　無理に吐かせないこと。
P333+P313　皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断/手当てを受けること。
P338　コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
P353　皮膚を流水/シャワーで洗うこと。
P403+P233　容器を密閉して換気の良いところで保管すること。

P405　施錠して保管すること。
P501　内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

３．組成及び成分情報

単一物・混合物の区別　：　混合物

化学名又は一般名	含有率	化学式	官報公示整理番号（化審法）	官報公示整理番号（安衛法）	ＣＡＳ番号	ＥＣ番号
ホルムアルデヒド	20%	CH_2O	(2)-482	公表	50-00-0	200-001-8

４．応急措置

吸入した場合：
被害者を直ちに暴露した場所から空気の新鮮な場所に移動させる。
呼吸困難または呼吸停止の場合、直ちに医師の診察を受ける。

皮膚に付着した場合：
石鹸を用いて多量の水で洗浄する。
汚染された衣服は直ちに脱ぎ捨てる。
直ちに医師の診察を受ける。

眼に入った場合：
多量の水で瞬きしながら、15分以上洗浄する。
直ちに眼科医の診察を受ける。

飲み込んだ場合：
直ちに医師の診察を受ける。
意識がない場合は、口にものを与えてはならない。

５．火災時の措置

消火剤：
周辺の貯蔵品に適用される消火剤

消火を行う者の保護：
適切な保護具を着用し、安全な場所から消火活動を行う。

６．漏出時の措置

人体に対する注意事項：
作業の際には保護具を着用し、風上から作業すること。

環境に対する注意事項：
表層水、地下水、下水、土壌の汚染を避ける。

回収・中和等：
吸収剤に吸着させて、適切な廃棄処理を行う。
漏出箇所はきれいに清掃する。
付着物、廃棄物などは関係法規に従って処置すること。

その他：
風下の人を退避させ、漏洩した場所の周辺にロープを張るなどして関係者以外の立入を禁止する。
付近の着火源となるものを速やかに取り除く。

７．取扱い及び保管上の注意

取扱い：
安全取扱い注意事項を確認し、化学的暴露を避けるため推奨される適切な個人用保護具を着用すること。
飲食、共用設備に触れる前に手を洗うこと(電話、コンピューターなど)。
この製品を使用するときは適切な換気を行うこと。

保管：
容器は気密性を保つ。
Product technical data sheetを参照のこと。

８．ばく露防止及び保護措置

許容濃度等：　Action Level 0.5ppm　TWA 0.75ppm　ホルムアルデヒド
（出典）：OSHA PEL
STEL 2ppm　ホルムアルデヒド
（出典）：OSHA PEL
Ceiling 0.3ppm　ホルムアルデヒド
（出典）：ACGIH TLV(USA)

ばく露防止措置：
設備対策：
この製品を使用する場合は、一般的な換気装置を設置すること。
取扱い場所の近くに、緊急時に洗眼、身体洗浄を行う設備を設置する。
緊急時、局所排気装置を用いる。

衛生対策：
眼、皮膚および衣服に触れないようにする。

保護具：
保護眼鏡：
ゴーグルまたはフェイスシールド
緊急時、適切な化学飛沫用安全メガネまたは顔面保護具を使用する。

保護手袋：
有機溶剤または化学薬品が浸透しない材質の手袋を着用する。

呼吸用保護具：
必要に応じて、呼吸保護具を使用する。

その他の保護具：
有機溶剤または化学薬品が浸透しない材質の保護衣を着用する。
緊急時、化学品耐性保護衣、ブーツを着用する。

９．物理的及び化学的性質

形　　状	：	液体
色	：	無色～オフホワイト
臭　　い	：	刺激臭
密　　度	：	1.08-1.13
蒸 気 密 度	：	1.04 (20℃)
蒸　気　圧	：	17-20mmHg
沸　　点	：	＞93.3℃
引　火　点	：	＞60℃
自然発火点	：	データなし
爆 発 限 界	：	下限　7% 上限　73%
溶　解　性	：	水に溶ける。

１０．安定性及び反応性

安定性：
通常の取扱い条件下では安定である。
Product technical data sheetを参照のこと。

危険有害反応可能性：
反応するおそれ:
強酸化剤、アルカリ、酸、フェノール、尿素、イソシアナート、酸無水物

避けるべき条件：
高熱
Product technical data sheetを参照のこと。

危険有害な分解生成物：
炭素酸化物

１１．有害性情報

急性毒性：
LD50(oral/rat)　：　100mg/Kg　ホルムアルデヒド
LD50(dermal/rabbit)　：　270mg/Kg　ホルムアルデヒド

皮膚に付着、目に入った場合：
眼への刺激が考えられ、発赤、流涙、痛み、かゆみ、腫れ等の症状を引きおこすおそれがある。
眼への刺激が考えられ、結膜および角膜損傷のおそれがある。
皮膚を刺激し、炎症、火傷等をおこすおそれがある。
皮膚細胞が壊死するおそれがある。

吸入した場合：
粘膜を刺激し、呼吸器障害をおこすおそれがある。
頭痛、目まいをおこすおそれがある。

飲み込んだ場合：
胃腸管を刺激、吐き気、嘔吐、下痢、多渇症等を引きおこすおそれがある。
血圧、血液成分に影響を及ぼすおそれがある。

遺伝毒性等：
ホルムアルデヒドは、ヒトに対して発がん性を示す。（IARC: 1）

その他の有害性：
この他の有害性を否定することはできないが、それらを予測評価するための充分な知見はない。

１２．環境影響情報

生態毒性：
LC50　260mg/L(48Hr)(ホルムアルデヒド)
魚類（サバヒー）
LC50　232mg/L(96Hr)(ホルムアルデヒド)
魚類（サバヒー）

生体蓄積性：
濃縮性が低いと予測される。

移動性：
移動性の高い成分を含有する。

その他：
データはないが、自然水、下水、土壌中への流出を避ける。

１３．廃棄上の注意

残余廃棄物：
廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。

容器包装：
関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行なう。空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去すること。

１４．輸送上の注意

国連番号 ： 3334
品名　　： AVIATION REGULATED LIQUID, N.O.S.
クラス　： 9

国内規制：
消防法：第四類 第二石油類　 Ⅲ　 水溶性
毒物及び劇物取締法：医薬用外劇物　 （ホルムアルデヒド）

安全対策：
運送に際して漏れのないことを確かめ、直射日光を避け、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

１５．適用法令

消防法：第四類 第二石油類　 Ⅲ　 水溶性

ホルムアルデヒド
毒物及び劇物取締法：劇物　 政令番号：指定劇物 97
化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)：特定第1種指定化学物質　 政令番号：411
化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律：優先評価化学物質
労働安全衛生法第57条の2：通知対象物質
労働安全衛生法第57条：表示対象物質
労働安全衛生法特化則：第2類物質

１６．その他の情報

参考文献：
製造元　MSDS（英文）

記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データにもとづいて作成しておりますが、含有量、物質化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保証をなすものではありません。また、注意事項は通常の取扱いを対象にしたものなので、特殊な取扱いの場合には、用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用下さい